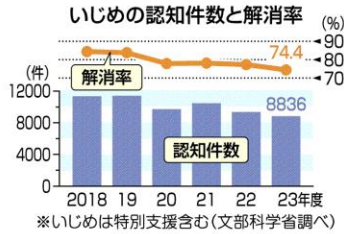
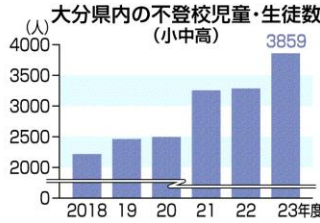




県内 不登校最多3859人

23年度文科省調査



文部科学省が31日に公表した2023年度の「問題行動・不登校調査」で、大分県内の不登校の児童生徒は3859人だった。前年度を974人上回り過去最多を更新した。増加は7年連続。県教委は「学校に必ずしも行かなくなっている」といった考えが広まったことなどが背景にある」と分析している。いじめの認知件数は8836件で2年連続で減った。

不登校は、病気や経済的な理由以外で年間30日以上欠席した子どもをカウントしている。内訳は▽小学校 1044人(前年度比22.8人増)▽中学校 2114人(同227人増)▽高校 701人(同119人増)で、中学生が半数以上を占めた。中学生の不登校の理由(複数回答可)は「学校生活にやる気が出ない」が28.7%で最多。「生活リズムの不調」が16.0%、「不安・抑うつ」が14.1%、「いじめを除く友人関係」が12.6%と続いた。

「ネットいじめ」増

県教委は本年度から児童生徒に配布しているモバイル端末を通じて、心身の状況を毎朝、入力してもらうシステムを導入した。不登校につながる不調をいち早く察知できるよう対応を進めているという。

いじめの認知件数は千人当たり76.0件で、全国平均の57.9件を上回った。内訳は▽小学校 7197件(同651件減)▽中学校 1551件(同194件増)▽高校 74件(同37件減)▽特別支援学校 14件(同31件減)。

内容で多かったのは、冷やかしやからかい、悪口など。「パソコンや携帯電話などでの誹謗中傷」は前年度から38件増えて305件となり、「ネットいじめ」が増加傾向にあることがうかがえる。

公教育の変革が必要
子どもの不登校に詳しい別府大の佐々木龍平助教(29)の話
不登校の理由はいくつかある。現在はフリースクールの数も増えている。様々な選択肢ができたため、無理して「行きたくない学校」に行く必要がなくなっているのだから。将来的には公教育の変革が必要。今年4月に玖珠町に開校した不登校児を受け入れる「学びの多様化学校」のような取り組みを、各地域で考えていくべきだ。



〔問①〕 2023年度の大分県内の不登校の児童生徒は3859人で、過去最多でした。中学校は何人ですか。

〔問②〕 過去最多になった要因を県教委はどのように分析していますか。

〔問③〕 いじめの認知件数は8836件ありました。ゼロにするにはどうしたらいいだろう。話し合おう。